

国語 第6学年 冬のおとずれ

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、季節を表す語の意味と語感を比べ、伝えたい情景に合う言葉を選ぶ。文学的な言葉を多く入れることより、観察と表現が対応することを重視する。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「冬のおとずれ」 教材名「冬のおとずれ」

2 単元の目標

語句の意味や語感を確かめ、季節の様子を表す文章の中で使うことができる。伝えたい情景に合う語句かを確かめ、表現を選び直して文章を整えることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①語句の意味や語感を確かめ、季節の様子を表す文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、伝えたい情景に合う語句かを確かめ、表現を選び直して文章を整えている。(B(1)オ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

季節を表す語の意味と語感を比べ、伝えたい情景に合う言葉を選ぶ。文学的な言葉を多く入れることより、観察と表現が対応することを重視する。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として

〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

自分の観察記録と辞書の意味を並べ、使う語の候補を比べる。独自例「冷たい風が通る」と「乾いた風が通る」では何を感じた場面かを説明し、語を替える根拠を明らかにする。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。おおむね満足できる状況は、伝えたい情景に合う語句かを確かめ、表現を選び直して文章を整えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○観察記録から季節を示す特徴を選ぶ。冬の空気や音などから印象に残った特徴を選び、触覚や聴覚を表す語を比べる。情景が伝わる文章を書く。言い換えた場合と比較して表現を整える。評価：思①（発言・学習記録）

6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

伝えたい情景に合う語句かを確認、表現を選び直して文章を整えることができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：使う教材を確認、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。

○「似た季節の言葉でも、読み手が想像する景色はどう変わりますか」

【めあて】季節を表す語の意味と語感を比べ、伝えたい情景に合う言葉を選ぶ。

予想される児童の反応：・静けさを表す語にすると音の少ない景色になる。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「似た季節の言葉でも、読み手が想像する景色はどう変わりますか」

観察記録から季節を示す特徴を選ぶ。冬の空気や音などから印象に残った特徴を選び、触覚や聴覚を表す語を比べる。情景が伝わる文章を書く。言い換えた場合と比較して表現を整える。

観察の記録、言い換えの候補、語を選んだ理由を添えた短い文章。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・静けさを表す語にすると音の少ない景色になる。

・動きを示す語で時間の変化を伝えたい。

・辞書の意味と実際に見た様子が合う語を残した。

指導上の留意点：自分の観察記録と辞書の意味を並べ、使う語の候補を比べる。独自例「冷たい風が通る」と「乾いた風が通る」では何を感じた場面かを説明し、語を替える根拠を明らかにする。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。

想定するつまずき：難しい語ほどよいと考える、意味を調べず語感だけで用いる。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 伝えたい情景に合う語句かを確認、表現を選び直して文章を整えている。(発言と学習記録)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・辞書の意味と実際に見た様子が合う語を残した。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「似た季節の言葉でも、読み手が想像する景色はどう変わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時に確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

